

うしかい座には白鳥座のアルビレオと並び有名な2重星があります。アルビレオは宇宙の宝石箱といわれますが、うしかい座のε星はブルケリマ（もっとも美しいもの）と名づけられました。19世紀のロシアの天文学者（北半球の2重星研究家）シュトルーヴェが天体望遠鏡で見たこの星のオレンジと青の色の対照がみごとなことから名づけたことは有名です。

★今月のテーマ木星を見る会

観望会の開催時間に木星が見られるようになりました。これから徐々に高度も高くなり観望好機に入っています。去年は天秤座に見えましたが今年はひと星座東に移り蛇遣い座の足元というよりさそり座のアンタレスの北に輝いています。と言ったほうが皆さんには馴染みがあるかもしれませんね。

まだ地平線からあまり高く登っていないので、小望遠鏡での観察になると思いますが、来月からはドームの中の15センチ屈折望遠鏡で観てもらいたいと思います。口径が大きくなると倍率だけでなく細部まで観察することができます。

また6月19日日没1時間後頃に西北西の地平線低くに双子座のカストル、ポルックスと水星、火星が接近する姿が見られる。星景写真に興味のある方は地上の風景と合わせて写真を撮るチャンスですよ。

-次回の天文クラブ-

●6月の星を見る会

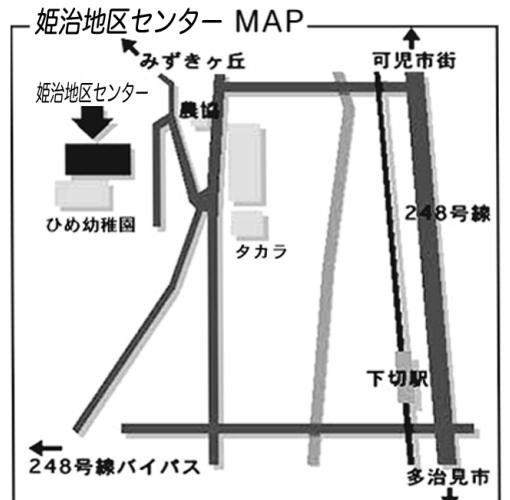
6月8日(土)午後7時30分より
春の星座教室

●7月の星を見る会

7月27日(土)午後7時30分より
土星と木星の観察
夏の星座教室

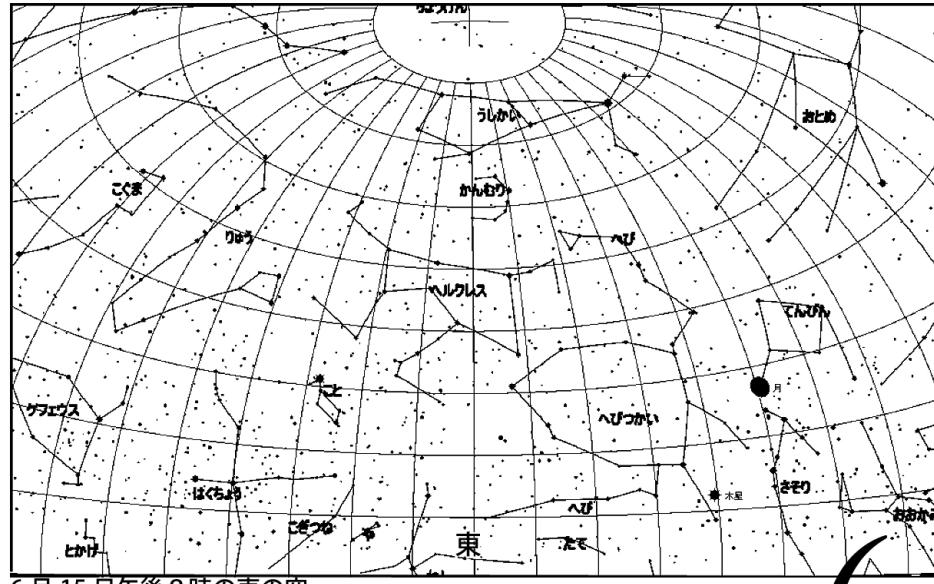
姫治地区センター
岐阜県可児市下切 1530
0574-62-0104

姫治天文台
<http://himeziten.yu-yake.com/>



※観望会についてのお問い合わせは
姫治地区センター (62-0104) まで

姫天だより



★今月の星座 うしかい座

6月の下旬午後8時ごろに、ほぼ頭の真上を見上げると、オレンジ色の明るい星から、ネクタイの形に星が並んでいるのが見つかります。これが2匹の獵犬を連れておおぐまを追い立てるうしかい座です。うしかいのモデルについては、はっきりしたことは分かりませんが、自分の母親とは知らずおおぐまを追い立てる、獵師アルカスであるとした説もあります。

星座の歴史は古くプトレマイオスの48星座のひとつですが、起元前9世紀ごろのギリシアの詩人ホメロスの書いた叙事詩「オデッセイア」の中に“沈むに遅きボーテス”（ボーテスとはうしかい座のこと）と歌われていることからもかなり古くから牛飼い座が描かれていたことがわかります。また、沈むに遅きには、春にうしかい座が東の地平線から昇ってくるときは寝そべった形で短時間で姿を表すのに、秋に西の地平線に沈む時には、立った姿でゆっくりと沈んでいくようですが印象的だと語っています。

オレンジの明るい星はアルクトゥルス熊の番人という意味があり、-0.1等星でとても目立っています。（普通1等星と呼ばれる明るい星の2.5倍明るく光っています）日本ではちょうど麦の刈入れのころにこの星が頭の上に輝くので“麦星”的呼び名があります。アルクトゥルスは、北斗七星の柄杓の柄を使って南へ延ばす春の星座を見つける春の大曲線によって簡単に見つけることが出来ます。男性的にオレンジに明るく輝くこの星と、さらに春の大曲線を南へ延ばし、その先に輝くおとめ座の1等星スピカは女性的で清楚に青白く輝いていることから、この2つの星をカップルにみたて、春の夫婦星と呼ぶこともあります。

6月号
2019

裏面に続く